



2023年 3月25日
第177号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



2023JR総連春闘としてたたかい抜いたことを確認し

納得感を見いだせない会社姿勢と組織破壊攻撃に立ち向かう横浜地本見解

3月14日、申9号第3回団体交渉で会社から回答が示された。回答内容は、あまりにも私たちの生活実感、労働実感から乖離した回答であった。回答に対し、全国から5,120件、横浜地本では400名を超える組合員・未加入者から声が寄せられ「4,000円の根拠がわからない」「職責でベアに差をつけられた」「他企業が満額回答の中JR東がこの回答ならば転職が増える」「物価高に達していない」と、その多くが「不満」「納得いかない」という声だった。この間の会社施策による業務の「融合と連携」により職場から人は減らされ、「過去最高の働き度で過去最低の賃金」と一人あたりの業務量は増えている一方で、教育が満足に行われず安全を脅かす事象が発生しており、現場で働く組合員・社員は疲弊し、休職や退職の道を選択する人も後を絶たないのが実態である。第三四半期決算まで黒字を達成した社員一人ひとりの奮闘には応えず足元の業績が今年度予想まで達していないのは、経営陣として業績予想の立て方に問題があるにもかかわらず、社員へ責任転嫁する姿勢は断固として許すわけにはいかない。

3月23日、申12号再申し入れを行い団体交渉で①回答の根拠に納得できない②満額回答にならない理由がわからない③定昇カットに納得できない④生活を守る視点がないことをぶつけてきたが、会社は「踏み込んだ回答をしている」「最大限の回答をしてきた」「最終回答である」と回答し、申9号の「会社回答」を覆すことはできなかった。改めて、要求実現には組織強化・拡大しかないと実感した。

横浜地本は3月15日、103名の仲間の結集のもと、横浜地本緊急集会を開催し、日勤教育は組織破壊攻撃であることを明らかにし、23春闘とリンクさせてたたかいへと押し上げ、職場から議論を積み重ねてきた。賃上げ率だけ見ればJR発足以降7番目の上昇率であるが、物価上昇率と比較すると賃上げ率は低く、実質「賃下げ」である。そもそも、1万円満額獲得しても生活は厳しい状況であり、ベアに職責に応じた差を付ける事は、上位職への煽りでもあり、物言えぬ社員化を狙った分断であることは明白である。一方「社友会やJR西日本などが低額相場をつくったが、それを打ち破ることができた」「総対話を通じて職場活動・運動を強化してきた」などの声もあり、一つの成果でもある。私たちは改めて、会社に騙されない本質を見抜く力をつけていかなければならない。この会社回答の数字に騙されて安堵感を持っていては、今後の期末手当交渉の低額相場へつながってしまう。私たちの23春闘は、何であったのかをもう一度捉え返すことが重要である。私たちの労働力の価値は本当にこの会社回答で納得しているのか、私たちの労働者意識を高めていくには総対話での組織議論によって切り拓いていくしか道はない。JR東労組でしかできないことを自覚し、更に組織強化・拡大に向けてたたかいを継続していく。

全ての組合員に訴える！安全無くして労働無し！たたかい無くして春闘なし！労働組合無くして要求実現なし！組合員の強化無くして不当労働行為・ハラスメントの撲滅なし！未加入者・離脱者に社友会の悪質性を暴露し、東労組に結集させよう！

全ての未加入者に訴える！おかしいことは「おかしい」と声を出し、労働者一人ひとりが主役になれる職場環境を一緒につくり出すために、今こそJR東労組に結集しよう！

23春闘の要求実現に向けて職場からたたかいをつくり出していただいたすべての組合員・家族の皆さんに感謝を申し上げ、横浜地本執行委員会としての見解とする。

2023年3月25日
東日本旅客鉄道労働組合
横浜地方本部執行委員会

2023年度賃金引き上げ等に関する申し入れ妥結にあたっての横浜地本見解
労働組合無くして要求実現なし！騙されず、諦めず声をあげ続けよう！